アーチルニュース ちぇなっぷ

第 36 号

≪発行･連絡先≫
仙台市北部発達相談支援センター(北部アーチル)
電話:022-375-0110, FAX:022-375-0142
仙台市南部発達相談支援センター(南部アーチル)
電話:022-247-3801, FAX:022-247-3819

※アーチルは「仙台市発達相談支援センター」の愛称です。子供から大人まで，発達障害のある方の支援を行っています。
※ちぇなっぷは「CHIN UP！（前を向いて)」の意味です。

これからの 10 年に向けて

『育ち』と『くらし』を支えるアーチル」を合言葉に開所したアーチルは，令和４年４月に満 20 年を迎えました。
「生涯ケアの実現」を目指して，この 20 年間，個別の相談支援に加えて，理解者の拡大や支援ネットワーク形成等本人や家族が生活しやすくなるための環境調整等にも取り組んできました。

開所からアーチルが大切にしてきた考え方，すなわち
① 本人らしく生きることが出来る社会の実現を共通課題に，本人・家族・支援者・市民が協働する。
② 本人の生きづらさや家族の育てにくさに着目して診断前から支援を開始する。
③ 二次障害予防の観点から支援する。
④ 本人の自己決定・自己実現を支援する。
⑤ 多領域が協働して生涯に渡り一貫して支援する。
は，20 年経った今も，これから先にも大切な考え方です。

北部アーチル(H14 年4月開所)

南部アーチル(H24 年 1 月開所)

そして，これからの 10 年，これまで以上に大切になるのは「連携・協働による支援の推進」でしょう。
身近な地域で本人が望むサポートが届くよう，「つながる（支援ネットワーク)」「育てる（人材育成)」「広げる（理解者拡大)」「創る（社会資源の創出)」をキーワードに，多くの機関や様々な方々と連携・協働による支援をさらに進めていきたいと思っています。

北部アーチル所長　蔦森　武夫

アーチル 20 周年記念 研修会を開催しました！

日時：令和４年 11 月 29 日(火)
13 時 30 分～
場所：日立システムズホール
仙台　シアターホール

第１部：講演
講師：本田 秀夫 先生
第２部：シンポジウム

開催報告は，
裏面をご参照ください！

4月2日　　4月2日～4月8日

「世界自閉症啓発デー」　「発達障害啓発週間」 ブルーライトアップ in みやぎを開催します！

「癒し・希望・平穏」を表し，自閉症啓発デーのシンボルカラーである，ブルーの光でライトアップします。
日時：令和５年４月２日（日）～４月８日（土）
★三井アウトレットパーク仙台港　観覧車「ポートフラワー」
★仙台放送大年寺山送信所鉄塔「スカイキャンドル」
※仙台放送のイベント状況により，日時変更または中止となる場合があります。
主催：宮城県・宮城県発達障害者支援センターえくぼ
北部アーチル・南部アーチル

≪ホームページ≫ http://www.city.sendai.jp/kenkou/hattatsu/gaiyou/ もしくは「アーチル」で検索
※この広報紙についてのご意見･お問い合わせは北部アーチルまでお願いします。

アーチル 20 周年記念研修会開催報告　「発達障害児者支援のこれからを考える」

これまでのアーチルの相談支援や支援システムについて振り返り，今後の本人や家族にとっての相談支援，支援システムについて考える機会として「20 周年記念研修会」を開催しました。

第 1 部　講演「発達障害児者支援の現状・課題と今後の展望 ～10 年後を見据えて～」

講師：信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 教授
信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部 部長　本田秀夫 氏

NHK のハートネット TV にご出演されているほか，多数の著書もご出版！

話題の一部をご紹介します！

共生のポイント

すべての人に対して，多様な視点があることを知る，異なる立場の人を疎外しない，不要な攻撃をしない。同じことをすることを強制しない。“みんな一緒”を求めない。

ただ，どうしても守れない人もいるので，社会的弱者を守るために法整備を進めることも必要。定型発達でないといけないのではなく，色々な育ちがあることがあたりまえと思える社会になっていって欲しい。そういう仕組み作りをしていくことが行政の役割。

インクルージョン教育

発達障害を持つ人だけでなく，それ以外の人達にも自然に生活できる仕組みや環境を整えることがユニバーサルデザインである。ユニバーサルデザインだけでは対応が難しく，個別の支援が必要な場合に合理的配慮をする。ここまでを通常のクラス，会社でやっていく。それと同時に，当事者同士（少数派）の交流の場を意識して確保する必要がある。両方が必要で，この 2 本立てでインクルージョン教育といえる。

インクルージョンを担う人材は，通常学級の園や学校の保育士・教員の方なので，人材育成は，それを障害の担当部署ではなく，一般の担当部署で担うことが望ましい。

第 2 部　シンポジウム「仙台市のこれからの支援を考える～それぞれの立場から～」

アーチルに関連の深い，乳幼児期の支援者，学齢児期の支援者，保護者の方，当事者の皆様をシンポジストにお招きし，仙台市の発達障害児者支援の次の 10 年に向けて，メッセージをいただきました！

親子がより身近な地域で，安心して過ごせるように，児童発達支援センターとして，様々な支援機関と協働していくためのスキルアップ！複雑な課題に対応できる人材が必要で保護者支援に力を入れてきた強みを活かしていきます。
大野田たんぽぽホーム　小野寺園長

特別支援コーディネーターが効果的に動ける（専任できる）体制づくりを考えていきたい。ユニバーサルデザインの考えに基づいた授業，人材育成を考えていきます。
教育と福祉の連携は必須！
今後も継続していきたいです。
木町通小学校　原校長

学齢期のお母さん（保護者）の気持ちを受止める場やつながりの場がもっとあるといいな。色んな“支援の場”で行われている支援は，本人や家族の求めることとマッチしているか？を考えて欲しい！
保護者の方

本人が主体的にそれぞれの望む生活ができるように，「居場所」と「理解者」が必要です。本人が必要な情報へのアクセスしやすい仕組みや行政と協働で心のバリアをなくす取り組みが活性化することを期待しています！　当事者の方